

# **R 7 年度の P B L 事例について**

# 1. 福井県立大学におけるPBL事例

## <実施事例>

### 福井県立大学×越前市総務部防災危機管理課

#### 『中高生の自転車用ヘルメット着用促進に向けた啓発活動の企画立案と実施』

##### <協働先の課題>

- ・「自転車のまちづくり」を推進している越前市では、現在、安全で正しい自転車利用とりわけ自転車用ヘルメットの着用促進に現在取り組んでいる。他方、越前警察署の調査によれば市内高校生のヘルメット着用率が11%（令和5年度）にとどまる等、若年層のヘルメット着用率が依然として低い現状にある。

##### <学生の取組内容>

- ・越前市内で実施されるイベントにおいて、自転車ヘルメット着用啓発活動を行った。

##### <事業成果>

- ・市役所や警察署の方々と会議を重ね、イベントで地域の方々とふれあうことで、学生たちは地域の方々のために働く市役所職員の魅力について実感できた。
- ・学生主体の取り組みの広がりや、福井県全体におけるヘルメット着用の定着化につながると期待される。また、学生による啓発活動は同世代に対して高い効果を持つと考えられる。



## 2. 福井工業大学におけるPBL事例

### <実施事例>

#### 福井工業大学×毛利酒造合資会社 『酒かすの実用的活用方法の開発』

### <協働先の課題>

- ・酒造りの副産物である酒かすは、これまで奈良漬や魚の粕漬などさまざまな食品製造に利用されてきたが、近年の漬物人気の低迷や食生活の洋風化などによりその需要は年々減少してきている。そのため、多くの酒かすが産業廃棄物として廃棄される状況となっている。

### <学生の取組内容>

- ・酒かすを活用した新規食品の開発に学生が主体的に取り組んでいる。また、品質や機能性の把握が重要であるため、酒かすおよび加工食品の成分や特性の検討も行った。

### <事業成果>

- ・酒かすの調査を通じて、地域や酒造業の課題への理解を深めた。また、試作や試食会を通じて食品開発の技術と情報発信力を身につけた。
- ・酒かすの有効利用により、新たな商品開発の可能性が広がった。また、観光需要にも合致する商品化が進み、地域産業活性化や将来の人材確保への期待が高まった。

